

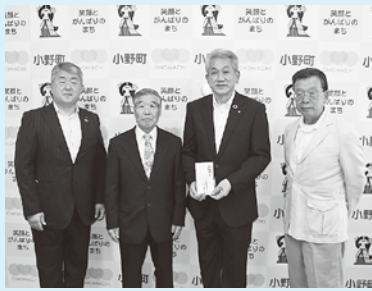
文化・体育振興基金への ご寄付ありがとうございます

小野町自衛隊家族会様から、文化・体育振興基金にご寄付をいただきました。

紙上より厚くお礼申し上げます。

小野町文化・体育振興基金は、町の文化と体育の振興と充実に図るために個人や団体からの寄付により積み立てている基金です。

この基金は、小・中・高校生の全国大会出場時の激励金や表彰、町の社会教育団体や芸術文化団体、スポーツ少年団への補助や活動費などに、有効に活用させていただきます。



左から有賀教育長、吉成久男会長、町長、西牧義和副会長

ふるさと小野町会 ふれあい通信



最近思うこと
吉田 徳一

神奈川支部・夏井出身

コロナ禍の中での生活、皆さまも不自由で不安な毎日をお過ごしのことと思います。

このような中で東京オリンピックが強行されましたが、成功したと言えるかどうかわかりません。「コロナを拡散させた」政府としては面目を保った「な」どさまざま意見がありました。この件について特に話をするつもりはありません。競技では、多くの日本選手が地元の利を生かして活躍しました。そのような中、私は人道上的話題に

ついて興味を持ちました。

まず、一人の選手が日本に着いてから行方不明になりました。彼は競技に参加できなくなり帰国せざるを得なくなりました。母国に帰っても貧しい生活が待っているだけ、日本で仕事をみつけようと思ったのと。帰国した彼はその後母国でどうしているでしょうか。

次に、一人の選手がコーチからの一方的な指示に不満を表しましたが、帰国後の身を案じ他国へ亡命しました。受け入れた国があつて良かったと感じました。良い話題もありました。

競技会場へ行くバスを乗り間違えた選手が、大会ボランティアに助けを求めたところ、タクシー代を貸してくれ、無事に競技に参加することができました。その選手は、彼女を探し出してタクシー代を返し、獲得した金メダルを見せ感謝の気持ち

を伝えました。これこそが「おもてなし」だと思いました。

また男子マラソンでは、過去に難民仲間だった二人の選手が、現在の所属国は違うけれどもお互いに励まし合い、それぞれ銀・銅メダルを獲得し、素晴らしい友情を見せてもらいました。

新型コロナウイルス感染症や異常気象、世界の人口は増えても地球の面積は変わりません。この現状を地球の反乱だと言う人もおりますが、平和を維持するためにはお互いに「思いやり」の心を忘れずに協力し合うことしかないと感じています。

